

佐久間町で天竜川勉強会

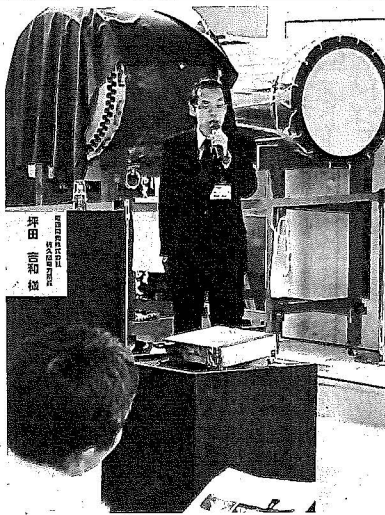
浜松ダム完成60年、150人が学ぶ

浜松市天竜区佐久間町の佐久間ダム完成60年を機に、市と国土交通省浜松河川事務所は19日、天竜川勉強会「天竜川とともに生きる」

史を説明。外国の新しい技術と機械を使い、3年で完成させたダムの建設時を振り返った。60年間、佐久間町とともに歩んできたことも強調し、「今後も

坪田所長は「佐久間ダムを同町の佐久間歴史と民話の郷会館で開いた。佐久間電力所の坪田吉和所長は「佐久間

角哲也教授は、60年間のダムの堆砂進行状況を図で解説し「下流河道の河床低下や海岸浸食の恐れがある」と指摘した。土木研究



「佐久間ダムの果たす役割について」と題して講演する坪田吉和所長。19日午後、浜松市天竜区佐久間町の佐久間歴史と民話の郷会館

センターなぎさ総合研究所（東京都）の宇多高明所長も講演した。

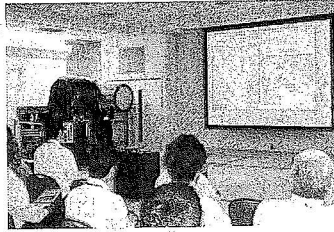
地域 NEWS

国交省浜松河川国道

天竜川勉強会行う

佐久間ダム60周年

国土交通省浜松河川国道事務所と浜松市は、浜松市天竜区の佐久間歴史と民話の郷会館で、佐久間ダム完成60周年を機に天竜川と佐久間ダムについて学ぶ「天竜川勉強会」を開催した。当日は約1



20人が参加した。写真。

はじめに電源開発佐久間電力所長の坪田吉和氏が「佐久間ダムの果たす役割」について、建設の経

緯や歴史を振り返った。次いで、京都大学防災研究所の角哲也教授は「ダムを未来につなぐために必要なこと」と題し、土砂管理の現状について報告。ダムからの砂の排出と天竜川への土砂供給の必要性を指摘した。また、土木研究センターなぎさ総合研究所の宇多高明所長は、「天竜川からの流出土砂量の激減による遠州灘海岸の浸食」について報告。浸食が進む海岸の危機的状況を訴えた。

この記事・写真は日刊建設通信新聞社の許諾を得て掲載しています。